

令和4年度 第3回学校運営協議会
(兼 高校と地域で創る未来の学びプロジェクト事業地域連携組織)
議 事 録

日時 令和5年2月27日(月) 13:30~16:00
場所 岡山県立勝間田高等学校 記念館3階会議室
(委員15名のうち12名が出席、1名リモート参加)

1 開会行事

- (1) 校長挨拶
- (2) 会長挨拶
- (3) 事務局より

2 令和4年度 学校運営に関する評価

- (1) 教育活動報告
 - 高等学校再編整備について
 - 三者連携協力協定の締結について
 - 生徒募集状況
 - 進路状況
- (2) 資料説明
 - 学校評価書
 - 学校自己評価アンケート
 - 主な事業と予算(執行状況)
- (3) 質疑応答(委員からは質問なし)

【議長】

就職について、近隣からの求人状況はどうか。

【事務局】

コロナ下でも十分いただき、県内だけでも400件以上あった。ただ、そのような中でも希望する職種がないという生徒もいる。

【議長】

未定者の状況は。

【事務局】

卒業予定者は82名で、現在就職内定者が50名で進学先決定者が20名である。残り12名中6名はまだ活動中である。式後に見学に行く生徒、まだ見学先も決まっていない生徒もいる。その他は、浪人、バイト、自分で探す生徒である。

(4) 学校評価

●学校自己評価書について

- | | | |
|-----------|-------------|-----|
| 1 学力向上 | …自己評価と同様の評価 | で賛成 |
| 2 生活習慣の確立 | …自己評価と同様の評価 | で賛成 |
| 3 進路実現 | …自己評価と同様の評価 | で賛成 |
| 4 情報発信・広報 | …自己評価と同様の評価 | で賛成 |

●次年度に向けて

【委員】

特になし

3 令和5年度学校運営基本方針協議

(1) 令和5年度学校経営計画書(案)

①説明

②質疑応答

質問なし

③承認または修正

承認

(2) 令和5年度主要事業予算

①説明

②質疑応答

質問なし

【議長】

勝央町としても少し予算を確保する予定。地域協働コーディネーターの不足を補いたい。

③承認または修正

承認

(3) 令和6年度教育課程について

①説明

【事務局】

資料は令和5年度のものである。今年度当初、令和5年度以降の教育課程について協議を重ねた。5系列のままでいくことを決定し、各系列で0ベースから何を学ばせたいか、そのためにはどんな学びが必要か、ということを考え、このような教育課程となった。系列を超えた学びや学校設定科目の新設などもある。さらによくしていくために、委員のみなさんからも意見をいただきたい。

【議長】

どういう学びがあるとよいか、委員のみなさんから令和5年度の第1回学校運営協議会で意見をいただければと思う。

4 職員の任用に関する意見

(1)

【校長】

5年間で教員数が10名減となる。教育を継続していくための人材確保、さらには人材育成も必要である。

【委員A】

教員減の中で教育活動を維持していくのは難しいのでは。外部人材を活用していくべきである。

【委員B】

高校と地域で創る未来の学びプロジェクトの準指定校も来年度までで地域協働活動

コーディネーターの配置も来年度までとなる。地域協働活動コーディネーターのおかげで情報発信が毎週されている。外部から見ても強みだと感じる。今後、教育の強みをどう伝えていくか。伝えないと、何をやっているか知らないで入学してくることになる。県や町の予算措置が必要である。志願者を集め、どう教育し力をつけていくか。生徒募集のための情報発信として、「何をやって、どんな子どもたちが育っているか」を伝えていく必要がある。

【議長】

県への働きかけは行っていく。就職希望の生徒のために、就職の窓口と徳仁にも必要では。マンパワーをつぎ込むことが必要である。

【委員C】

1、2年生対象でスマート農業体験を年1～2回を計画している。また、その様子を勝英農業普及指導センターが発行している勝英農業情報誌にも掲載して農家へも配布している。また、農業で頑張っている卒業生を取材し、SNS等で紹介してはと地域協働活動コーディネーターへ提案している。卒業後、農業をしっかりしていることを紹介してPRしていけばよいのではないか。

【委員D】

- ①子どもたちが夢を持つための講演は行っているのか。
- ②来年度、教員減はどのくらいなのか。
- ③SNSだけでなく新聞を活用してはどうか。HPやSNSは見ようとしないと見られない。

【事務局】

- ①外部人材の活用は、学校経営予算の中で行っている。各系列からの要望で計画して行っている。
- ②来年度の教員数減は、教諭2人減、実習教員1人減である。
- ③PTA新聞は作成している。中学校向けの新聞も作成していきたい。

【議長】

山陽新聞の地方面が3月1日から変更となり、美作版2ページだったのが1ページとなり、各地域版と併せて全県で6ページとなる。ただ、県下で統一した紙面となるため美作地域の情報を他の地域の方も見てくれるようになる。ページ減の影響の様子を見て、必要であれば新聞社へ要望もしていきたい。

委員の皆さんの意見を集約し、

- ・教員数の減少により不安のある、5系列の教育維持のための人員配置。
- ・三者協定締結に係り、地域連携に経験のある教員・人材の配置。
- ・学校の魅力発信に寄与する人材の配置。

以上3点を、本年度の学校運営協議会の意見として岡山県へ具申したい。

5 高校と地域で創る未来の学びプロジェクト事業について

- ・事業の概要について
- ・地域協働活動コーディネーター活動報告

【議長】

委員の皆様から来年度への要望も含めて意見をいただきたい。

【委員E】

地域協働活動コーディネーターの活動により情報が外部へ伝わっている。ただ、学校自己評価アンケートで「学校は、HPや学校通信などを通して、地域への情報発信に努めている」という項目で生徒の満足度が57.1%と低いのが気になる。

学校経営計画書に生徒の声が入っているのがよい。リブランディングの会でも、「勝間田高校に入れてよかった」と言える学校にしていくことが魅力化につながるということで協議を続けている。学校評価書の達成基準に学校自己評価アンケートの「勝間田高校に入学して充実感や満足感を持つことができている」の数値目標を入れるとよいのでは。また、同時に先生方の「教えてよかった」と言える満足感も上げていくことが必要だと思う。

【議長】

地域協働活動コーディネーターが外部に発信しているが、教員はどれだけ知っているか、また生徒へも知らせることが必要である。

【委員F】

学校自己評価アンケートで、教員と生徒の満足度に差がある。「先生はよく相談に乗ってくれる」の項目が気になる。自分から相談に行けない生徒もいる。相談室の活用を。教職員の記述回答を見て、熱心な先生が多くいることがわかった。期待したい。

【議長】

続いて、本年度の三者協定締結に係る本運営協議会の役割について、事務局より提案いただきたい。

【事務局】

8月から月に1度開催してきた「リブランディング会議」が礎となり、勝央町、しょうおう志援協会、勝間田高校との三者協定締結の礎となった。「リブランディング会議」は、自由で快活な意見が出ている。「リブランディング会議」を、高校や地域の魅力化に向けた具体案を検討する本運営協議会の諮問機関と位置づけ、その提案を審議する決定機関として本運営協議会を位置づけることを提案する。

【議長】

委員の皆様からご意見をいただきたい。

【委員G】

地域で活躍している人が支援に入り、常に動いていけること、速い動きで対応していくことが非常によい。

【委員H】

教員が減少し、学校の大きな農場を管理できるのか。地域の人材を活用して維持していくことも必要では。

SNSは気にした人が見るもの。不特定多数が見る新聞や便り（JAなどが発行するもの）なども活用し、農業高校のページを作ってもらうなどしては。

【委員I】

生徒募集が徐々に改善が見られ、ほっとしている。入試が終わった後で改善が進んだのかを総括し、来年度以降重点化していくことが必要である。

公式なものからうわさまで、いろいろな情報に生徒は敏感である。よくない情報については特に敏感である。よい形での改善を望む。

【委員A】

ある会報に、リハビリを農業でやっていく記事が載っていた。また、大阪大学が間伐材等を加工して半導体を作る研究をしている。活躍の場はたくさんある。「総合的な探究の時間」のプログラムに入れるなどして、それを紹介していくと、メディアにも取り上げられる。企業に予算を出してもらい、企業と連携して地域人材育成プログラムを行っていけばよいのでは。

【議長】

地域の人材を活用し、地域に発信し、地域全体を巻き込んでいく取り組みができるよう、県へ予算をつけてくれるよう要望していく。

6 情報交換等

【委員J】

魅力を伝える方法だが、若い人は新聞よりSNSを見る方が多い。SNSを見る年代へのアピールが必要である。保護者へしっかり伝えて、口コミで広げてもらう。口コミは大事。よいことが広まるとよい。

【委員K】

生徒に地域の特産品を知ってもらうためにも、農業体験を今後も実施したい。アグリ魅力化プロジェクトには、今後も協力していきたい。

【委員G】

SNSのリンクツリーは優れている。多くの人に見てもらえるよう、QRコードをPRしていけば、商工会議所との連携もいいのでは。

【委員D】

受験者数増は先生方や生徒の頑張りからである。校長先生は、ぜひ褒めていただきたい。そしてさらに頑張ってもらいたい。

7 閉会行事

(1) 校長より

(2) 事務局より

①来年度の学校運営協議会について

委員の任期は1年だが、再任は妨げないため、3月に打診

②その他